

産科 婦人科

伴 千秋

産科は、異常なく経過した人だけでなく様々な合併症をもった妊娠にも、できるだけ自然なお産を体験してもらえるよう努力している。

産科的合併症は経過が急で母体・胎児に重篤な異常を来すことも多い。またそれ以外の合併症も、非妊娠とは異なる病像を呈したり、妊娠経過に重大な影響を与えることがよくある。このような場合、従来の産科診療は、「とにかく早くお産を終わらせる」ことに重心を置きすぎていた様に思う。子宮内の胎児の状態を知りようもなく、言わばブラック・ボックスを扱っているようなものであったからやむを得ない面もあったが、例えば糖尿病妊婦では、妊娠中に胎児が胎内死亡することがあるために、糖尿病の重症度にしたがって数週間以上も人工的に早産させていた。その結果救われる児もあったが、逆に早産のために死亡したり重篤な後遺症を残したりした児も多かった。

しかし胎児心拍モニタリング・超音波断層法が導入されて子宮内の胎児の状態を推測することが可能となり、個々の事例に応じたリスク管理をすることが可能になってきた。新しい知識・技術を駆使して「とにかく早くお産を終わらせる」という診療の陰の部分の是正し、症例に応じた適切な個別管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。

また小児脳神経外科グループと協力して、水頭症など先天性中枢神経奇形をもつ胎児の出生前診断と治療を数多く手がけるほか、当院がエイズ診療拠点病院であるため、HIV合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

※ 産科の業績は、婦人科と共に掲載

【2011年度研究発表業績】

A-0

Kanematsu D, Shofuda T, Yamamoto A, Ban C, Ueda T, Yamasaki M, and Kanemura Y.

Isolation and cellular properties of mesenchymal cells derived from the decidua of human term placenta.

Differentiation 82(2):77-88, 2011 Sept

Iwasa Y, Tachibana M, Ito H, Iwami S, Yagi H, Yamada S, Okagaki A, Ban C, Mano M, Kodama Y, Ueda M.
Extrapulmonary Lymphangiomyomatosis in Pelvic and Paraortic Lymph Nodes Associated With Uterine Cancer : A Report of 3 Cases. International Journal of Gynecological Pathology 30:470-475, 2011.9

【A-0】 Mikami M, Yoshida K, Takenaka T, Yamazaki H, Kotsuma T, Yoshida M, Aramoto K, Yamada S, Ban C, Tanaka E, Honda K. Daily computed tomography measurement of needle applicator displacement during high-dose-rate interstitial brachytherapy for previously untreated uterine cervical cancer. Brachytherapy 318-324, 2011.10

Yoshida K, Ueda M, Yamzaki H, Takenaka T, Yoshida M, Miyake S, Yoshida S, Koizumi M, Ban C and Tanaka E.
Interstitial Brachytherapy Using Virtual Planning and Doppler Transrectal Ultrasonography Guidance for Internal Iliac Lymph Node Metastasis. J Radiat Res 53:154-158, 2012 .Jan

若宮俊司、吉田茂、岡垣篤彦他共著：「医療現場のデータベース活用」：ファイルメーカーの特殊な使い方、141-162, 2011年6月

A-3

岡垣篤彦、是恒之宏、中島伸、和田晃、楠岡英雄：記載インターフェースの改良による電子カルテの記載の質と診療内容の質の変化「医療情報学」Vol31 2011 No.1 : 37-48, 2012年1月

岡垣篤彦、是恒之宏、楠岡英雄：診療科のニーズに基づいて高度にカスタマイズした電子カルテの記載欄およびその運用状況の分析「第31回医療情報学連合大会論文集」2012年2月

B-3

岩見州一郎、松原尚子、種田健司、伊東裕子、八木治彦、山田成利、岡垣篤彦、伴千秋：子宮頸癌のリンパ節転移について。第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、札幌、2011年7月

松原尚子、山田成利、高橋悠里子、伊東裕子、西村史朋、岩見州一郎、八木治彦、岡垣篤彦、埜中正博、山崎麻美、伴千秋：当院における胎児期水頭症の診断と治療についての検討。第65回国立病院機構医学会、岡山、2011年10月

岩見州一郎、八木治彦、松原尚子、種田健司、伊東裕子、伴建二、山田成利、岡垣篤彦、伴千秋：急激な経過を辿った卵巣原発小細胞癌肺型の1例。第65回国立病院機構医学会、岡山、2011年10月

伴建二、松原尚子、種田健司、伊東裕子、岩見州一郎、八木治彦、山田成利、岡垣篤彦、伴千秋：当科で初回手術治療を実施した子宮内膜癌168症例の検討。第125回近畿産科婦人科学会学術集会、大阪、2011年11月

岡垣篤彦、是恒之宏、楠岡英雄：診療科のニーズに基づいて高度にカスタマイズした電子カルテの記載欄およびその運用状況の分析。第31回医療情報学連合大会、鹿児島、2011年11月

八木治彦、松原尚子、種田健司、伴建二、伊東裕子、岩見州一郎、山田成利、岡垣篤彦、伴千秋：経膈的用手整復術をなしえ良好な術後経過を辿った急性産褥性子宮内反症の6例。第34回日本産婦人科手術学会、久留米、2011年11月

岩見州一郎、松原尚子、種田健司、伊東裕子、伴建二、山田成利、岡垣篤彦、伴千秋：子宮頸癌・子宮頸部上皮内癌の治療前子宮頸部細胞診の後方視的検討。第26回大阪温知会総会、大阪、2012年2月

松原尚子、山田成利、高橋悠里子、伊東裕子、西村史朋、岩見州一郎、八木治彦、岡垣篤彦、埜中正博、山崎麻美、伴千秋：当院における胎児期水頭症の診断と治療についての検討。第124回近畿産婦人科学会、和歌山、2011年6月